

# 情報発信 ・異分野融合 ・学問

190326@筑波大学  
京都大学  
学際融合教育研究推進センター  
宮野公樹

## 何者か

学際融合教育研究推進センター准教授・国際高等科学研究所客員研究員  
専門：哲学、形而上学、政策哲学（かつては金属組織学、医工学、ナノテクノロジー）  
京都大学の学問の土壌づくり（気風）を目的とする組織で活動。それが我が学問

## 研究者間のコミュニケーションとは？

その目的に注意をはらいたい  
「構え」としての研究者間コミュニケーション  
コラボでなく、その先立つものとしての研鑽を求めるマインド  
1947年の三木清の言葉  
専門家たるもの、突き詰めればおのずと基礎たる哲学に接触するのは当然とし、自分の専門の意味をその外に立つことによってよりよく反省せんがため、あるいは自分の保持する原理の包括力および影響力を種々の分野において試さんがため、他分野と接触することを余儀なくされるもの  
異分野融合仕掛け人ってどのメディアに書かれたか忘れたけど（WIREDだったっけ？w）、当の本人は「専門など無い」とおもってやっている。

## 戦略的な情報発信、そもそも論

そう考えると、「研究」においては伝わらないと意味はないが、「学問」においてはそれはどうでもいい。  
野依氏、松本氏  
有と無  
分析と悟り  
研究者ばかりで学者が少ない  
学問は普遍。普遍は万民に通じること。万民に通じるなら、広報効果は究極的。  
ゆえに、もちろん広報戦略は大事と思いつつも、大学で研究する者なら、学問を、普遍を抑えようではないか、それが本分なのだから。本分が広報にも繋がるという最高の仕事なのだから  
金ない？ポストない？なんでそんな苦労話（愚痴？）を世間様にきかせるの？  
たしかに研究に金は要る、大なり小なり。でも、金がないと「いい研究」ができないわけではない。ここを抑えておかないとせっかくの意見が愚痴になるよ。  
四の五の言わず、とっとと面白いもんみせりゃいいんでないの？あなたの研究（人生）を世間に響かせて！

## まとめ

如何に自分らは囚われているか  
なんで論文を発信しなければならないってことになっているのか？  
そうしなきゃいけない人がいることも知っているが、それはしたくてしてるのか  
なぜ研究者になったのか？  
自分の動機、精神に従って、幅広に考える  
何をしたいか何をしていて何をしていることになっているのか。  
Youtube、話題のイベント、クラウドファンディング  
Q「研究者に情報発信（プレスリリースなど）の支援が必要か」  
A「必要な人には必要に決まっている。だからそれは問いになっていない。ただ、一番大事なのは情報発信してるかどうかをすべての研究者の評価軸にしては絶対にダメなこと」  
でないとますます学术界がおかしくなるよ  
FacebookID: naoki.miynao  
TwitterID : @ikiikilab  
参考：最近のVoicelはこちら  
2019年3月発刊「学問からの手紙—時代に流されない思考—」（小学館）